

平成30年第20回

# 荒川区教育委員会定例会

平成30年10月26日

於)特別会議室

荒川区教育委員会

平成30年荒川区教育委員会第20回定例会

1 日 時	平成30年10月26日	午後1時30分
2 場 所	特別会議室	
3 出席委員	教 育 長 委 員 委 員 委 員	高 梨 博 和 坂 田 一 郎 高 野 照 夫 小 池 寛 治
4 欠席委員	教育長職務代理者	小 林 敦 子
5 出席職員	教 育 部 長 教 育 総 務 課 長 教 育 施 設 課 長 学 務 課 長 指 導 室 長 生 涯 学 習 課 長 ゆいの森課長 地 域 図 書 館 課 長 書 記 書 記 書 記 書 記 書 記	阿 部 忠 資 山 形 実 平 野 興 一 小 堀 明 美 瀬 下 清 浦 田 寛 士 小 林 弘 幸 成 瀬 慶 亮 佐 々 木 希 久 子 大 久 保 和 彦 小 川 綾 一 早 坂 利 春 宮 島 弘 江

( 1 ) 報告事項

- ア 教育委員会主要施策に関する点検・評価の実施結果について
- イ 学校パワーアップ事業の成果報告および実施計画について
- ウ 平成30年度小学校ワールドスクールの実施結果について
- エ 平成30年度中学校ワールドスクールの実施結果について

( 2 ) その他

教育長 時間になりましたので、ただいまから荒川区教育委員会第20回定例会を開催いたします。

本日の出席者数を御報告させていただきます。本日、4名の出席でございます。

議事録の署名委員につきましては、坂田先生、小池先生、御両名にお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

7月13日開催の第13回定例会と7月27日開催の第14回定例会の議事録につきましては、前回の定例会で配付させていただき、この間、御確認をしていただいております。本日、特に委員の皆様から御意見等がなければ、承認とさせていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

教育長 それでは承認といたします。

本日の案件、報告事項4件となっておりますが、本日の案件に入る前に、昨日のニュースで文部科学省が子どもたちの問題行動調査ということで公表いたしました。とりわけいじめの件数について報告がなされて、ニュース等で大きく報道されてございます。これにつきまして、荒川区の状況ということで、口頭ではございますけれども、報告をさせていただきたいと思っております。

では、指導室長。

指導室長 それでは、平成29年度の全国問題行動調査の荒川区の状況でございます。まずは問題行動でございます。小学校トータルで234件。内訳といたしまして、対教師暴力23、生徒間暴力96、対人暴力17、器物破損98。中学校でございます。トータルで31件。内訳といたしまして、対教師暴力が3、生徒間暴力が25、対人暴力がゼロ、器物破損が3となっております。

特に小学校の数が大きく伸びている、その原因といたしましては、一部の学校の複数の児童が大変落ちつかなくなっている状況が昨年度ございまして、配慮を要するお子さんが中心になってございますけれども、そちらの件数が複数件入ったということで、大きく件数が伸びたということでございます。

教育長 その事例を除くと、それほど多くないということですか。

指導室長 偶発的なものにつきましては22件ということで、今、申し上げた複数回同じ児童がということで、212件入っております。

教育長 毎日のようにという感じなのですか。

指導室長 そういうことでございます。1日中飛び回って壁をたたいたりとか、教室の中に入ってみたり、そんな様子が。私も実際見に行きましてそんな様子が見られておりましたが、

今年は一気に変わりましたので、御安心いただければと思います。

続きまして不登校の状況でございます。平成29年度不登校。小学校でございます。不登校児童数が65です。復帰人数が17、復帰率が26.1%。中学校、不登校生徒数132、復帰人数32、復帰率が24.2%でございます。小学校、中学校ともに不登校、若干増えておりますが、復帰率がともに上がってきておりますので、ケアについては有効に働いている部分もあるかと思えます。ただ、不登校の児童・生徒の理由がさまざまございますので、そういった児童・生徒の気持ちに寄り添った教育相談機能をまず高めながら復帰率を高めていきたいと考えてございます。

最後でございます。いじめでございます。小学校認知件数215、解消割合82.3%。中学校認知件数29、解消割合86.2%でございます。いじめに関しましても、28年度から小学校においては増えております。これも先ほどの一部の学校におきまして、軽度のいじめが複数重なったことにより、小学校の方が認知件数が増えたということでございます。中学校は28年度41から29年度29に下がっておりますので、認知件数は減ってきております。解消の割合につきましては、いじめの解消の考え方が、3カ月程度一切そのお子さんからそういう行為がなくなったということがありますので、3カ月の経過の観察の期間もございまして、今の時点ではこの小学校215、中学校29におきましては解消したという報告が来てございます。

簡単でございますが、以上でございます。

教育長 この件については、第1報ということで、口頭で御報告をさせていただきました。また、まとめさせていただいて、議題として報告事項に上げさせていただきたいと思えますが、ただいま御説明した中で御意見、御質問等ございましたらお願いいたします。

高野先生、いかがでしょうか。

高野委員 以前と比べて全体的に増えたのは、診断基準というかクライテリアが変わりましたので、早期発見ということにつながってこういう結果になったと思えますので、少し経過を見たほうが、そして評価したほうがいいように思います。

坂田委員 あとは学校の現場にそういった対応で、どれくらい負担がかかっているのかということも、我々考える必要があって、ほかの子どもたちの教育に万全を尽くす必要ももちろんありますので、過度になっているような場合は、前も申し上げたように教育委員会などが別途助けに入る体制とか、そういったものを考える必要があるのではないかと思います。

教育長 この件については以上とさせていただきます。

それでは、先ほど申し上げましたように本日の報告事項4件のうち、まず「教育委員会主要施策に関する点検・評価の実施結果について」を議題といたします。山形課長、説明をお

願います。

教育総務課長 「教育委員会主要施策に関する点検・評価の実施結果について」御説明をさせていただきます。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づく「教育委員会の点検・評価」について、本年度の実施結果がまとまったので報告するものでございます。別紙に報告書の案がございますので、併せて御覧いただければと思います。

点検・評価者でございます。鈴木明雄氏、麗澤大学大学院の准教授。長谷川かほる氏、東京未来大学特任教授。東仁美氏、聖学院大学教授でございます。

点検・評価の対象・実施方法等でございます。平成29年度の教育委員会主要施策の点検・評価にあたりましては、今後の区の教育施策のうち点検・評価が必要と考える事業について、実際に現場視察を踏まえまして、学識経験者に御意見を伺ったところでございます。今後も報告を受けました後に、点検・評価の結果、それから学識経験者の意見等を参考にしながら、教育ビジョン等に掲げます目標の実現に向けて、計画的に執行に取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

3番の学識経験者の意見（概要）を御覧いただければと思います。まず、鈴木明雄氏でございます。学校パワーアップ事業について点検・評価をいただいたところでございます。まず、学校パワーアップ事業のうちの「学力向上マニフェスト」におきましては、小・中学校で独自に学力向上施策を工夫しており、生涯学習資格でもある各種検定、例えば英語検定などの取得を計画したり、読書活動を計画的に授業とタイアップし、国語力の向上に結びつける等の工夫がされたと評価をされております。

「創造力あふれる教育の推進」におきましては、豊かな情操を育てる美化環境整備や学校配当予算では購入ができない、学校独自の教育を推進するための備品等の購入が効果的であったと御評価をいただきました。

「未来を拓く子どもの育成」におきましては、個性や可能性を開花させる教育を一層充実させるため、子どもの学びを引き出す教育環境を一層整えるという理念から、学校の提案により優れた特色ある企画・実践に対し予算が配当されていたという評価をいただきました。

また、最後、今後に向けまして、未来の荒川区と区民の育成を見据えて、各学校・園は果敢に新しい改革にチャレンジすることが望まれると評価をいただいたところでございます。

続きまして、長谷川かほる氏でございます。

教員の育成について点検・評価をいただきました。まず、教員の職層に応じた職務を遂行するために必要な研修を実施しており、学びを即現場で活かせる。また、初任者から中堅教諭まで幅広い経験に応じて研修を実施し対応している。ライフステージに応じて実施するこ

とにより、そのステージに必要な教員としての資質向上を目指すことができ、教員育成において効果的であるという評価をいただいているところでございます。

裏面を御覧いただければと思います。区独自の教員研修では、英語教育について、区独自の積み重ねがあり、研修会が充実している。職層に応じた研修におきましては、段階的に教員育成が行われている。その他、上級救命講習など子どもの命を預かる学校の現場には必須なものであると御評価をいただきました。

校内、園内のOJTでは、研究テーマを各校の実態に応じて、具体的なイメージで進めているので好結果が出ており、校内研究を通して教員同士が学びあうことから、効果的な取り組みと考える。

また、校長による人事考課におきましては、教員一人一人の自己啓発に向けた意欲喚起を図るとともに、組織の活性化を図れるよう、区は今後も管理職の育成の支援を行うことが必要であると評価をいただきました。

最後に教員の働き方改革の視点も踏まえまして、研究のために時間をどのように捻出するかなどを検討し、資質向上を目指した効率的で効果的な教員育成を今後も推進してほしいとまとめていただきました。

東仁美氏でございます。英語教育について御評価をいただきました。荒川区では小学校英語に13年前から外部指導員の登用を英断しており、学級担任の支援に成果を出している英語教育アドバイザー制度は注目に値する。アドバイザーの質を今以上に高め、勤務校で校内研修を担当できるようにするなど、教科化に対応する指導者体制のモデルケースとして、今後、さらに充実していくことを期待する。

外国語教育強化地域拠点事業におきましては、研究を通して小中高で系統的にある学習到達目標のCAN-DOリストを作成し、研究成果を作成できたことは、拠点校事業の大きな成果である。

また、小学校ワールドスクールにおきましては、清里での4泊5日のプログラムを通しまして、6年生が必然性のあるコミュニケーションを体験する貴重な機会となっている。一方、中学校ワールドスクールにおきましては、3泊4日で国際教養大学のイングリッシュビレッジのプログラムに参加しており、参加する生徒だけでなく、引率する教員もその学びを荒川区の英語教育に持ち帰り、還元できることを期待する。

まとめに、都の「英語教育推進地域事業」として、平成29年度には5・6年生を対象としたタブレット教材を作成したものでございます。その教材を使った授業を見学していただきまして、音声と映像を使った教材は児童の集中力を高める効果があることを観察することができ、この教材が果たす役割については非常に大きいと感じられた。また、小学校におき

ましては、この教材のさらなる活用を図るとともに、モジュール学習を通して、カリキュラム開発や教材の改良への取り組みがより活発に進んでいくことを期待するという評価をいただいているところでございます。

別紙の冊子には詳細な記載がございますので、御覧いただければと思います。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

教育長 この件について、御意見、御質問等、よろしくお願いいたします。

小池委員 3人の先生方の評価というのは、本当に100点満点に近いですね。何か困っているようなことを相談する、「どうしたらいいか」と相手も単純な回答だけではできないような少し意地悪な質問を考えて来年度やったらどうでしょうか。というのは、本当にこれだともう万々歳という印象しか残らないですよ。だからみんなが本当に困っていることとか、本当にどうしたらいいだろうということ、いろいろあると思います。そういうのをぶつけたらいかがでしょうかね。

教育長 小池委員から指摘された課題について、瀬下室長、それぞれ説明してもらえますか。

指導室長 まずパワーアップにつきましての、今、小池先生からもお言葉をいただきましたように、大変お褒めの言葉が多かったのでございますけれども、今後、新しい、一番最後のポチにも書かれておりますけど、改革にチャレンジできるような工夫だとか、そういうものが必要ではないかということで、これは鈴木先生にも私、御質問させていただいた一つがございまして、会話の中でさせていただいたのですけれども、「学力向上マニフェスト」をより質の高いものにしていくため、結局学力向上につながる内容にしていかなければ意味がないので、そういった何か取り組みがないでしょうかと、我々が考えなければいけないことなのですけれども、アドバイスもこれから頂戴したいということをお話させていただきました。

教員の研修につきましては、やはりこれは継続的なものも必要ですので、今、取り組んでいることを引き続き継続していただきたいということもありますが、かといってこのまま同じような形でやっていきますと、働き方改革の視点でやはり課題が残るのではないかとということで、工夫をしてもらいたいということをお話を頂戴いたしました。

東先生の方からも、東先生は荒川区の英語教育の充実にこれまでも本当にお力をいただいた先生でございまして、荒川区の教育の流れを全部御存じの先生なのですけれども、一つ課題であり、アドバイスを頂戴したのは、このタブレットを使ったモジュール型の教材をいかに浸透させていくのかということと、内容の質をまた上げていったらいいのではないかとというアドバイスを頂戴したところでございます。

簡単でございますが、以上です。

教育総務課長 補足をさせていただければと思います。まず鈴木先生の方から御指摘いただ

いたパワーアップについては、校長の裁量のところで動けるというのは、本当に他にもないことだということでした。また、ずっと続いていることの御評価をいただいたのですが、教育に特化、学力向上などに特化したところにもう少し力を入れるべきである。やはりだんだん同じような内容になりつつあるなというところはお話の中では出てございました。

また、長谷川先生の教員の育成につきましては、学校内でOJTがあるというのが非常に重要という御評価をいただきましたけど、先ほど室長からありましたように、研修そのものと裏腹に教員の時間をどう捻出するか、それについてはじっくり教員の働き方改革の中で考えてほしいという御指摘をいただきまして、今年度、教員の働き方改革のプランについても検討してございます。

3点目の東先生につきましては、モジュール学習が非常に効果があるのですが、作成をされた時期から少し時間がたってしまったので、広くこれから活用するとともに、リニューアルしていかないとだんだん内容が古くなってしまわないかという御指摘をいただいたところでございます。

以上でございます。

坂田委員 モジュール型教材というのは、要するにビデオとかそういうことなのですね。

指導室長 はい。タブレットの中に15分程度で行える英語の教材でございます。それを3回やりますと、1時間単位という考え方でできる、そういう教材です。

坂田委員 70時間確保の一助というのは、どういう意味なのですか。この25ページにありますけど。

指導室長 今回5・6年生、本区におきましては、32年度から70時間の英語の授業の時間ということは提示されているのですが、本区ではもう1年生から英語の教科化をしておりますので、5・6年生はもう今年度から70時間のスタートを切っております。70時間を行うということは、週に2時間英語の授業を確保しなければなりませんので、今までですと、週に1時間だったところをもう1時間どうやって確保するかというところで、ある学校においてはもう1時間増やして英語の授業を確保して、週2時間使っているところもございます。もう一つはモジュール型を朝の15分を3回行いまして、時間割の中では1時間確保して、モジュールを3回朝やりまして、週2時間の授業を確保して70時間と。そのためにこの教材を活用してくださいという意味でも使っております。

坂田委員 そういうことなのでしょうけど、どういうふうに言うと妥当なのかがちょっと迷いますが、時間を確保することが目的では本来ないので、その方が教育効果が上がるかどうかということなのですかね。子どもたちの集中力があるので、今、おっしゃったような15分ワンショットで、ちょっと時間をあけて次をやるという方法が、子どもたちの教育効

果としてあるということであればいいことではないかと私としては思うのです。

指導室長 今、坂田先生から御指摘ございました、そういう捉え方もしておりまして、英語を45分間通しですっとやるよりは15分という短い単位で集中して取り組むことも成果が上がるということを専門家の方からも御意見を頂戴しておりまして、45分の授業の中でそのモジュール型のこの教材を使っている学校もございますし、このモジュールだけを単純に使っているところもございまして、その扱いは大変工夫をしていらっしゃるのですが、価値としては坂田先生がおっしゃった短時間で集中してぱっとやるということ意義を、こちらとしても認識してございます。

坂田委員 なぜモジュール型教材について質問させていただいたかということ、それ自体は英語に限らず、ほかの教科でも教育効果があり得るものだと思うのですね。先ほどの学力向上とも関係しますけれども、非常に優れた授業をモジュール型教材として確保するというの、一つの方策ではないかと考えます。一方で、現役の教員の方は時間的に難しいので、例えば退職された校長先生とか、退職された教員の中で、評価が非常に高かった方に協力をいただいて、そういうモジュールをつくることを考えてもいいのではないかなと思うのですね。

例えば数学、算数でも、子どもたちがつまずきそうなテーマというのは、大体わかっているわけなので、そういうところは重点的に教材の工夫を行ってはどうかと考えます。そういう難しいテーマについては教育力の差が一番出るところではないかと私は思いますので、退職された教員の方に手伝っていただいて、実際に模擬講義をしていただいて、それをビデオとしてこういったモジュール型にして活用するというのも検討してはどうかと考えます。今、社会においては、今みたいなことというのはかなり普通になってきているので、先生方の時間の制約を考慮しながら、一方では学力を上げるという方式になるのではないかなと私としては思います。

教育長 指導室長、いかがですか。

指導室長 貴重な御提案、ありがとうございます。実際に、後ほど御説明させていただく学校パワーアップの学力向上マニフェストのところで、成果が上がっている学校の一つで、もともと教員で、理科を専門にした教員がいらっしゃるしまして、その方が4年生、5年生、6年生の理科の授業に入っていただいて長年、今年度10年ぐらいになっているのですが、その学校の理科の学力調査の結果が大きく伸びているという結果が出てございます。ですので、今、坂田先生が御提案いただいた、そういう専門的な力をお持ちの御退職した先生などを活用して、またそれをモジュールとして何か撮影してということも研究していきたいと思えます。ありがとうございます。

坂田委員 予算が必要だったらば、要望してもいいのではないかと私は思いますけれども。

あと現役、今の教員の方々ももちろんOJTはどんな場面でも重要なのですけれども、それだけでは難しいところもあって、授業の進め方に関する気づきをきちっと持ってもらうために、それもやはり退職された先生方の中で、評価の高かった先生について御自身のそれまでの授業歴も振り返っていただいて、自分では言いにくいかもしれないけど、どうして子どもに通じたのかというところを自分なりに考えていただいた上で、やはり授業のやり方を見せていただくというか、それをビデオなどに撮って、そういうものも教材にしたらどうかなと思います。荒川区の中ですぐれた教員の方も多数おられますので、ほかに頼らなくてもできると思うのです。

教育長 ぜひ参考にさせていただきたいと思います。そのほかいかがでしょうか。

高野委員 今のお話に類似していますが、この学識経験者3名とも荒川区の教育事情を熟知している先生ですね。この方たちは、荒川区は何が欲しいかということをよく御存知だと思っております。学校パワーアップ事業、教員の育成、英語教育、それぞれのパートでどうすればもっと伸びるかを書類にしなくてもいいですから教えていただいて、できるものは実行するという形にしたいです。特に英語教育で思ったことは、イングリッシュビレッジのプログラムに参加して、学んだことを持ち帰り、教員が全員で共用したいものです。そして具体的に、どうすればいいか、各教員にも御助言していただけるといいと思うのです。それには電子媒体を用いれば簡単です。3名の先生方の意見プラスそれに加えたなら大変に価値のある資料になると思います。

指導室長 高野先生、ありがとうございます。今の一つ目のこの御三方の先生方のやはり荒川区を熟知した先生方からさらなるアドバイスを受けていくということは、引き続き行ってまいりたいと考えてございます。

イングリッシュビレッジにつきましては、これまでも教育委員の先生方からも大変有効なものであるという御指摘というか、御提案も頂戴し、第1段階としまして、今年度、内田先生に荒川区に来ていただいて、教員にも見て、英語教員悉皆の研修とさせていただいて、その取り組みについて広く荒川区にまた浸透させていこうと考えて、まず第1段階をやらせていただきました。来年度以降も今、貴重な御提案をいただきましたので、どういった形でこの国際教養大学のイングリッシュビレッジのプログラムを全体に提案できるのかということを考えていきたいと思っております。

高野委員 ちょっと話がずれるかもしれませんが、多分野にわたって、それぞれ個々の学校が特徴を持っていますね。ですからそれを先生方が共有して、子どもたちに対応できるようにする方法を織り込んだらいいかなと思います。初めは手間がかかりますけれども、電子媒体が一番簡単ですから、ぜひ共有するようにしたほうがいいと思います。そうするとより有

益になるかと思えます。

教育長 ありがとうございます。

教育総務課長 補足させていただきます。実はこの点検・評価に当たりまして、先生方からそれぞれ非常に熱い思いを語っていただきました。評価につきましては今回のところでまとめさせていただきますけど、また今後も先生方とも御意見を聞きながら、よりその思いを含めて、実現させていただければと思います。

また、2点目にありました共有化のところにつきまして、子どもたちに共有する、教員に共有するなど、電子化で共有というのは、教材も含めて共有というのは非常に効果的だと思いますので、今後も考えていきたいと思えます。

教育長 よろしいでしょうか。先ほど来、先生方から具体的なことも指摘をしていただいて、こうしたらもっとよくなるのではないかということをお話いただいておりますので、ぜひ現場に無理のない形で取り入れさせていただければと思います。とりわけ英語については、東先生や教育委員の先生方の御発言を踏まえ、受験英語とワールドスクールやイングリッシュビレッジをどう結びつけるかということが難しいのですけれども、ぜひ英語教育の充実に生かしていきたいと思っています。

タブレットについても、無理のない形で広げていければと思っています。坂田先生がおっしゃるように、知見の積み重ねをデータとして蓄積できるような仕組みを検討いたします。今でも少しずつ蓄積はしているのですけれども、なかなか生かし切れてないという点があるので、来年度タブレットの更新もありますので、十分考慮してまいります。

坂田委員 空いている教室があると思うので、そういうところで模擬授業というか、そういうのができればいいと思うのですよね。

教育長 坂田先生が先ほど御指摘されたように、教員の研修も必要ですけど、研修ばかりやっていると、教員の負担も増えてきてしまいます。優れた教員の授業を他の教員が見ることによって、自分の授業改善に役立たせることについても、ぜひ参考にさせていただきたいと存じます。

次に、若干関連しますけど、第2番目として、「学校パワーアップ事業の成果報告および実施計画について」とうことで、指導室長から報告をしていただきます。

指導室長 それでは、平成29年度「学校パワーアップ事業成果報告書」と平成30年度の「学校パワーアップ事業計画書」がまとまりましたので、御報告を申し上げます。

概要といたしまして、三つの柱からこれまでもなっております、学力向上マニフェスト。予算としては、各校80万円。そして、創造力あふれる教育の推進ということで、各校100万円の予算。そして三つ目の柱としまして、未来を拓く子どもの育成ということで、

教育委員会の査定で判断をさせていただいているところでございます。

平成29年度の成果報告書の骨格でございます。一つ目が学力向上マニフェストの成果事例でございますが、小学校におきまして、理科のチームティーチングということで理科の教員の経験者に、4、5、6年生の授業に入ってもらい、授業の質を向上させることによって、学力調査の理科の平均結果が大きく伸びたという成果が上がってございます。

また、全教員が研究授業を行って、そして「分かる授業」ということで、取り組んだ結果、保護者また児童から高い評価が挙がった小学校がでございます。また、全校挙げて漢字検定に取り組みまして、合格率を上げた小学校もでございます。あと文科省の「外国語教育強化地域拠点事業」といたしまして、取り組んだことによりまして、このGTECの検定を受けまして、3技能の向上が見られたという中学校がでございます。

創造力あふれる教育の推進の成果事例といたしまして、「妖怪授業」という、荒川区の特色、いろいろな地域性を学ぶきっかけとして、南千住の歴史を学ぼうということで、汐入地域の小学校で取り組みました。NPOの方に来ていただいて、子どもたちにとっては興味深い、大変楽しい授業ということで取り組んだものでございます。コーディネーショントレーニングという、もともと体育の向上をするための体幹を強化するトレーニングでございますが、そちらを取り組んで成果が上がっていると。また、プログラミング教育につきましては、東京都の推進校として取り組んでいる学校がでございます。また、hyper-QUというものを活用しまして、子どもたちの人間関係と学力にどうつながりがあるのかということ进行研究している学校などもございます。

裏面でございます。未来を拓く子どもの育成の成果事例といたしまして、カワラナデシコを中心に隅田川の堤防に栽培して、日本の風景ということで取り組んでいる小学校。また「学校図書館活用ノート」ということで、学校図書館の活用をさらに充実させるためにノートをつくりまして、そして「調べる学習コンクール」の応募などを上昇させるという小学校もでございます。緑のカーテンの取り組みを行った中学校。デジタルピアノを購入して、幼児教育に貢献したという幼稚園もでございます。また、絵本コーナーを充実させる取り組みをした幼稚園もでございます。

最後でございます。平成30年度の計画書ということで、今回の計画書につきましては、29年3月に改訂いたしました「荒川区学校教育ビジョン」に基づいた教育活動の展開ということで強調いたしまして、この計画書を作成してございます。特に学力向上マニフェストに関しましては、区の学力調査の課題をしっかりと分析した形で、そしてその課題解決のための方策をこの学力向上マニフェストに提案するのだということで、強調してまいりました。そのほかの部分では、ICT教材の充実。また学校図書館の効果的な活用。また研究授業専

門家を取り入れまして、そして質の高い授業力の向上ということで行っております。また、体験学習、検定やコンテストの参加、そして自然体験を行って豊かな情操を養っていくという取り組みをこの30年度の計画書の中で各校が工夫しております。

簡単ではございますが、御説明は以上となります。

教育長 この件について、御意見、御質問等お願いしたいと思います。

高野委員 1ページ目の内容を見ますと、漢字検定、外国語教育、英検ですね。こういうのを受けると、その学校の学力が伸びるようですが、荒川区の学校全体として、挑戦させてはいけないものでしょうか。

教育長 指導室長。

指導室長 この漢字検定につきましては、民間の検定ということもございまして、推奨という形では取り組んだほうがいいのだよということは、こちらとしてもお話する機会があるのですけれども、必ずということではなかなか難しいのではないかと考えているのですけれども。

教育長 先の議会でも区議会議員さんから御質問が出て、それは漢字検定ではなくて、英語検定なのですが、英語検定をもっと積極的に受けさせてはどうかと。教育委員会として補助をしてもいいのではないかという御質問もいただいております。指導室長から申し上げたように荒川区教育委員会では今のところ受験を推奨したり、申込書の取りまとめを行ったり、試験会場を提供することによって受験料が若干低く抑えられたりということで子どもたちの便宜を図っております。また教育委員の皆様も御出席いただき、年度末の教育褒章で一定のレベルに達した子どもたちについては表彰をさせていただいて、子どもたちの意識を高めるようにしています。

ただやはり受験料がかかるので、強制的に受けさせるとかということではできません。

高野委員 わかりました。間接的に奨励しているということですね。

教育長 そのほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、この件については以上とさせていただきます。

続きまして、先ほどもお話の出た「ワールドスクールの実施結果について」小学校と中学校とそれぞれ報告をさせていただきますが、関連もございまして、小学校、中学校と併せて報告をお願いいたします。

指導室長 それでは、まず平成30年度小学校ワールドスクールの実施結果ということで、御報告をさせていただきます。今年度は荒川区立小学校連合行事という捉え方をいたしました。内容としては、例年の内容の充実したものと変わりはないのですけれども、そういった捉え方をして30年度実施を行いました。目的としましては、記載のとおりでございますけれど

も、A E T、外国人英語指導員、またJ E T、日本人英語指導員というてこ入れをした形で子どもたちが国際コミュニケーション能力の向上を図れる場面をつくるということと、教員自身がこの指導力の育成の場ということで、引率教員を向上させるという取り組みを行う目的でございます。

活動の内容は、英語を楽しく学ぼうという場面。外国の文化や習慣に触れようという場面。そして、協力して、集団生活をつくりあげようという場面ということで、三つの活動内容からなっております。

実施は8月16日から8月20日にかけて、清里高原ロッジで行いました。

参加対象でございます。小学校6年生の男子39名、女子54名の計93名で今回は実施をさせていただきました。

次の引率者のところでございます。団長が第二日暮里小学校の川上校長。そして副団長が汐入東小学校の渡邊副校長でございます。日本人の英語指導員として9名。そして生活指導教員として9名が参加をしております。

続きまして、アンケートの結果でございます。子どもたち93名参加をしておりますが、88名の回答になってございます。「A E T、J E Tと交流が深めることができましたか」ということで、高い評価をいただいております。「習った英語を積極的に使うことができましたか」では、「大いにできた」、「できた」、「あまりできなかった」ということの数が出ておまして、大多数のお子さんが「大いにできた」、「できた」のところに入っております。「英語の力が高まったと思いませんか」というところの「とてもそう思う」、「そう思う」が大多数でございます。ただ「あまりそう思わない」とか、「そう思わない」というお子さんも少ないとはいえ、いらっしゃいますので、こういった感想を持ったお子さんへの対応をどうやって改善していくのかということと来年度以降の内容に、検討のところを含めていきたいと思っております。「ワールドスクールは楽しかったですか」ということで、大多数のお子さんは「楽しかった」ということでした。「英語がより好きになりましたか」ということについても高い評価をいただいております。

裏面でございます。「英語のレッスンについて感想を書いてください」ということで、「レッスン全般が楽しかった」、「道案内をするレッスンが楽しかった」など多くの意見が出ております。「生活にかかわること」のところでは、「A E Tの先生と英語で会話するのが楽しかった」ということや「J E Tの先生と話すことが楽しかった」という感想が出ております。「もう一度参加ができればやってみたいこと」ということで、「たくさん英語を話したい」とか、「J E TやA E Tと交流を深めたい」ということ。うれしいのは「中学生になってもみんな参加したい」という感想を持ったお子さんもおります。

次の7番、「英語のレッスンでどのような力がつきましたか」ということで、一番多かったのが「コミュニケーション能力」、また「聞く力・話す力」が多かったです。「発音の仕方」ということも数多くの感想が出ております。「ワールドスクールで自分が変わったと思うことを書いてください」というところでは、一番多いのが「英語を使うことに対して積極的になった」ということ。また「英語を少し話せるようになった」、「英語がもっと好きになった」という感想が出ております。

裏面でございます。次は、保護者の意見・感想ということで、大変多い御感想・御意見は「他校の児童との交流はとてもよい経験になったと思う」と。また「貴重な体験の場を設けていただき、ありがとうございました」という御意見が多かったです。また、「親からでは与えることができない数々の素敵な経験をさせていただきありがとうございました」と。「人とのコミュニケーションは苦手だが、このワールドスクールをきっかけにかわってくればよいと願っています」ということ。また「中学生になっても、中学校ワールドスクールにぜひ行かせたい」といううれしい言葉もいただいております。「4泊5日楽しく英語に触れることが出来た。こんな素晴らしいプログラム、希望者が全員参加できるとよいと思う」ということ。また「6年間のうちに2・3回経験できるとよい」という御感想を頂戴しています。

最後にご意見・要望ということで、これは私どもも今後検討していかなければならないという内容も含まれてございます。「後日グランドフィナーレの試写会があると良いと思う」とか、「写真・DVD等の販売があったら良いと思う」とか、「講師について英語圏の講師でかためてほしかった」など頂戴しております。また今回は、第二日暮里小学校の川上校長校先生の御協力をいただいて、今、取り組んでいることをリアルタイムでホームページに写真で載せさせていただいたのですけれども、そんな取り組みについても、区としてどんなことができるのかということをも検討していきたいと考えてございます。最後、引率教員の感想ということで、ねらいの達成につきましては、「小学校では習わないような日常会話をたくさん学ぶことができた」ということ。また、グランドフィナーレで英語劇の中で生かすことができていたということ。また、若手教員が参加することによって、授業力、教員としての力量を向上させることができたのではないかと御意見もいただいております。

簡単でございますが、小学校のワールドスクールでございます。

続きまして、中学校のワールドスクールの実施結果でございます。今年度も公立大学法人の国際教養大学で「イングリッシュビレッジ」というプログラムに参加をさせていただきました。

目的は記載のとおりでございます。主な活動につきましては、まず国際教養大学の「イングリッシュビレッジ」のプログラムに参加すること。また、プレゼンテーションを最後発表しますので、その方法を学ぶということ。そして秋田市内の観光ということで、観覧させていただいたり、農業体験を行ったりということで、文化的なふれあいを行ってまいりました。8月3日から8月6日でございます。今回の参加対象、中学校2年生、3年生。男子12名、女子18名で、計30名の参加でございます。団長が稲葉諷訪台中学校校長。そして引率教員が4名でございます。4名のうち3名が英語の教員、1名が養護教諭となっております。

続きましてワールドスクールのアンケート集計ということで、円グラフが出てございます。「英語学習に対してモチベーションが上がった」というところから、大変高い高評価を頂戴しております。「大学のスタッフの助言はわかりやすかったか」ということで、「大いにそう思う」、100%の生徒さんはお答をいただいております。

若干あまり全体としては高くないところで言いますと、一番左の下、「プレゼンテーションの準備時間は十分だったか」では、「大いにそう思う」が64%。「そう思う」が23%ということで、時間については少し検討する必要があるかなということがございます。また右側の上から二つ目のところ、「英語で説明する活動の難易度は適切だったか」では、「大いにそう思う」が77%、「そう思う」が20%ということで、「大いにそう思う」というところが、他と比べますと、そんなには高くないかなということでございます。あと、上から3番目の「発音記号学習は学校で教わることと違う部分があった」のところでございます。こちらは「そう思わない」という生徒さんが17%おります。この発音記号に関しましては、中学校の英語の授業の中で徹底してそれを教えているかということ、そういうことではなくて、学習指導要領の中でも発音の指導の中の補助として発音記号を用いてもいいですよという程度が記載されてございますので、内田先生が発音記号をまず教えていくところと、少し英語の授業としては違っているのかなというところが、このアンケート結果に出ているのではないかと考えてございます。

次の裏面のところは、それぞれの項目の記載分ということで、感想が記載されてございます。最後に引率教員からの意見ということで、行程につきましては、秋田市内の観光とイングリッシュビレッジの計画を反対にしたほうがいいのではないかという意見が出ています。参加する生徒に関しましては、よい感想が出ております。

最後、運営につきましては表をお付けしてございますけれども、参加人数が学校ごとにはばらつきがあるという御指摘をいただいております。確かにそのばらつきがあるということで、来年度の取り組みについては工夫をして、バランスよくどの学校の生徒にも参加してもらえ、そんな計画にしていきたいと考えてございます。

私どもからは以上でございます。

教育長 以上2点、小学校と中学校のワールドスクールについて説明をさせていただきました。

この件について御意見、御質問等ございましたら、お願いいたします。

坂田委員 中学校ですが、教育体制上30名というのはほぼマキシマムというか、30名はもう変えられないという感じなのでしょうか。

指導室長 国際教養大学のイングリッシュビレッジの方の枠というか、学生さんの対応と本区から行く生徒の数ということであわせて調整しておりますので、これがどこまで増えても大丈夫かどうかは、国際教養大学とまた相談してみたいと思います。

坂田委員 先ほどの話で、今の30名は例えば人数になったら締め切っているのか、どういう基準でこの30名になっているのか。

指導室長 人数になりましたら締め切っております。

教育長 実際の希望者というのは、何名ぐらいいたのですか。

指導室長 最初、やはり30名ぴたっとそろそろ形ではなくて、多く出てしまう学校と、まだ全然出てないのでどうですかとお声をかけて、そして少し増えてくるというのが実態でございます。このすばらしさを感じている生徒が多いと、次もまた出てくるのですけれども。

小池委員 小学校のワールドスクールについては、目的、要するに一言で言うと、英語に慣れさせるということと自信を持たせる。これはかなり達成されたのではないかという感じがします。わからないときに、「わからない」ということを恥ずかし気もなく話すとか、質問するというところで、小学校はこのやり方を継続するのでいいのかなと思います。

他方、中学校については前にも申し上げたかもしれませんが、目的をどうするのか、英語になれさせるほうに重点を置くのか、あるいは英語の能力を向上させるほうに重点を置くのか、目的によって随分違ってくるのですね。というのは、中学生になると、読む、書く、話す、聞くに加えて、語彙と文法。要求されるべきものが随分増えるのですよね。だから英語が苦手な生徒を支援するのか、それとも伸びる可能性のある生徒をもっと伸ばすほうにあるのか。恐らく全く別々の考え方で、一つのワールドスクールで両方達成するのは難しいのではないのかという感じがします。一番理想的には並行して両方を持つのが一番いいのでしょうかね。そのあたり来年度計画するに当たって、どのあたりに目標を置くのか、目的を苦手意識のある生徒の支援にあるのか、もっと伸ばす方向にあるのか。その辺について我々として、実施する側として覚悟を決めて行う必要があるかなという感じがいたします。

教育長 小池先生御自身はどちらの方を重点的にやったらいいとお考えですか。

小池委員 できれば両方ですね。やはり本当に中学校で授業についていけなくなったら、もう完全に英語がわからなくなってしまうのですよね。だけど中学校は伸ばさないといけな

いのですよ。やるべきことが小学校で慣れたらいいという単純なものではないのですよね。だからもっと伸ばすためにどうしたらいいかという見地からやっていくのか。できたら両方ですけれども、できないとしたら、どちらにするのか。そのあたりは我々として腹を決める必要があると思います。

高野委員 僕もそのように考えます。同感です。私の意見はどちらかといえば後者の方に匹敵するのかな、先生のおっしゃった伸ばすほうに。いずれにしろしっかりやらなければいけないです。これ見ますと、地域差があるのですね。一中、第五、第九、諏訪台中学校が少ないのですね。小学校との英語教育との関連とか、そういうところがあるのでしょうか。なぜ少ないのかなと、毎年そうなのかなということです。同じ環境をつくらなければ、区の方針としてはいけないのしょうけれども、あまり差がつかないようにするいい方法はないものしょうか。一番は学校の授業でしっかりするのはもちろんやって、伸ばすためにはワールドスクールを上手に使うということがいいように思います。基礎固めは授業でしっかりさせる。そして勉強したい生徒は、さらに事業に参加するという環境づくりも大切です。

教育長 瀬下室長、何か意見はありますか。

指導室長 今、御指摘のとおり非常に悩ましいところございまして、例えば今、中学校のワールドスクールのお話でございましたけれども、小学校のワールドスクールの保護者の要望の中でお1人、英語検定準2級を取得している児童の保護者からということで、このお子さんはかなり英語ができるお子さんで、もっと伸ばしたいという気持ちで保護者はこの小学校のワールドスクールに参加させてくださったと思うのですけれども、御意見としては、一斉指導している子どもにはわくわくさせられなくなると思うと。ですから「求めている」ところに、もっと英語を使える基礎はあるのにもっと使いたいんだけど、そこまでの内容ではなかったということで、今、伸ばすところと、楽しさを知る、慣れさせるということと、枠が30で、どうやって工夫するのか。あと予算の関係も挙げられまして、研究していきたいと思えます。

また東先生などからもアドバイスを受けながら、次回のワールドスクール、やはりねらいをどこに置くのかということを絞っていきたいと思えます。

教育長 私自身も今のお話をお聞きしながら、小学校は小池先生がおっしゃったように英語に慣れるということを中心にして、準2級とか、2級とか、若しくは帰国子女のお子さんたちには物足りないようであっても、それは仕方ないのではないのかと思えました。そういうお子さんはまた別に御自分で学ぶ機会があるのではないかと思うのです。ただ中学校で英語を一生懸命やっている生徒と、英語が苦手なのでこの際一から英語を勉強したいという生徒は、レベルが違ってきてしまいます。また、今は2年生も3年生も一緒に実施としているの

ですけど、学年が違くと文法だとか習ってきている内容に差がついてしまっています。どこを主のターゲットに置くのかというのを決める段階に来ているのかとも思います。

先ほど指導室長からも申し上げたように、東先生や実際に国際教養大学で御教授いただいています内田先生とも御相談しながら、来年度の中学校のワールドスクールの持ち方について十分検討させていただいて、仮にそのターゲットを絞った場合、今までターゲットといえますか、参加できるはずだったお子さんたちが、別の形で何か参加できるような形が設けられないか、ぜひ検討させていただきたいと思います。

坂田委員 教育長がおっしゃることは妥当な話だと思うのですが、一方でアンケートを見ると、全体としては子どもたちの満足度はかなり高いのですよね。したがってあまり過度に考え過ぎずに、基本はそこにあって、ただそれぞれのこういう目的で実施するのだというのを御家庭にもう少しわかるように、最初の募集のときにアナウンスするというだけでもいいのかなと思うのです。それで自分の子どもは苦手なのだけれども、チャレンジさせてほしいとおっしゃるのであれば、それはそれでいいと思いますし、準2級を持っていて、英語力としては別に学ぶ必要はないのだけれども、しかしこういう機会があれば、やはりそれも行かせたいということであれば、それはそれでいいのではないのでしょうか。ただ御家庭の期待とそこがなるべくないように、最初からこういう事業なのだよというのを、もう少しアナウンスをはっきりさせるということではどうかと思います。

教育長 せっかく始めている事業ですので、生徒たちに、そして保護者の方々にもはっきりその事業の目的がわかるような形で、来年度、事業を企画立案させていただきたいと思います。ありがとうございました。

以上が用意させていただいた案件でございます。そのほか事務局から連絡事項はありませんでしょうか。

教育総務課長 日程等については変更ございませんが、明日からの周年行事が3校2園ございます。明日は諏訪台中学校の20周年がございますし、またその後に11月10日には第三瑞光小学校の110周年。17日には第三日暮里小学校100周年。東日暮里幼稚園の50周年。また12月1日には汐入こども園の10周年。また御案内差し上げますので、よろしく願いいたします。

以上です。

教育長 それでは、ほかになければ、これをもちまして教育委員会を閉じさせていただきたいと思います。

了